

平成29（2017）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育A	科目ナンバリング	C1011SG G001
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育現場で音楽活動を行うにあたっては、まず、楽譜に書かれている内容が理解できることが必須です。本授業では音楽の基礎である音楽理論を学びます。

《テキスト》

『やさしい楽典』（ドレミ楽譜出版社）

《参考図書》

その他、資料などは必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 音楽理論を理解し、楽譜を理解して演奏できるようになる。
- コードネームを見て伴奏づけができる。
- 律動や保育現場での音楽活動に必要なリズムが理解できる。
- 子どもの声の高さに合わせて移調ができる。
- 初見で歌ったり、演奏したりできる。

《授業時間外学習》

【復習】毎回の授業が理解できないと次の授業で更に理解できなくなります。必ず前回の授業内容を復習し理解したうえで毎回の授業を受けること。

《成績評価の方法》

平常点30% (授業中に指示する課題)
 筆記試験70%
 試験後解説を行い、達成度を確認する。

《備考》

1. 保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。2. 悪い受講態度(スマホ使用、無駄話、重度な居眠りなど)は評価に反映します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	楽譜の基礎	五線、音部記号、音名(イタリア語、日本語、英語)、音高、# b ♯、異名同音 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
2	拍子①、音の長さ①	拍子、4分の4拍子、4分の3拍子、4分の2拍子、小節、反復記号、3連符、リズム打ち、弱起の曲、タイとスラー、シンコペーション
3	拍子②、音の長さ②	拍子、8分の6拍子、8分の3拍子、付点音符、リズム打ち、リズム総復習 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
4	音階、ハ長調、記号	音階、ハ長調の簡単なメロディーの初見奏、強弱記号、奏法記号 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
5	主要三和音とコードネーム (ハ長調①)	I、IV、V、V7とC、F、G、G7の理解、和音の基本形と転回形、カデンツ(和声)
6	主要三和音とコードネーム (ハ長調②)	ハ長調の初見奏(和音あり、両手)、コードネーム付きメロディー譜で伴奏付け ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
7	主要三和音とコードネーム (へ長調)	へ長調の音階、I、IV、V、V7とF、B♭、C、C7の理解、へ長調の初見奏
8	主要三和音とコードネーム (ト長調)	ト長調の音階、I、IV、V、V7とG、C、D、D7の理解、ト長調の初見奏 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
9	三和音の種類、その他のコードネーム	長三和音、短三和音、増三和音、減三和音とコードネーム、2度、3度の音程の理解
10	イ短調	イ短調の自然短音階、和声短音階、旋律短音階、イ短調の主要三和音とコードネーム ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
11	調について	調号の理解、#系の調、b系の調
12	移調	調の理解と確認、移調の方法、移調奏
13	復習①、伴奏法	音、拍子、リズムの復習、主要三和音、コードネームの復習
14	まとめ	理解の確認
15	復習②、理解度の定着	調、主要三和音、分散和音などの伴奏法

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B	科目ナンバリング	C1012S◆○002
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

音楽教育Bでは、器楽合奏で使う打楽器や鍵盤楽器などの奏法や、保育現場での活用法を学習します。また、合奏を通し、合奏指導法や、指揮法も学びます。

《テキスト》

『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育の歌12か月』
(新星出版社)

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- 楽器の基本的な知識及び奏法を理解し、演奏することができる。
- 楽器を使った音遊び、アンサンブル、合奏指導ができる。
- 保育者自身の音楽表現力及び実践力を向上させる。

《授業時間外学習》

授業で取り扱った曲は、各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%
平常点(授業中に指示する課題)30%
試験後解説を行い、達成度を確認する。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業の前後の挨拶を徹底します。15回のうち1回を学生コンサートに振替え、授業内容の順番を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	拍・リズムパターン	基本のリズム打ち・8ビート・ワルツ・チャチャチャ・サンバのリズム
2	リズム楽器①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(カスタネット・鈴・タンブリン)
3	リズム楽器②	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(トライアングル)
4	リズム楽器③ 合奏①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(ギロ・ウッドブロック・マラカス) 合奏練習①
5	打楽器① 合奏②	打楽器の奏法(小太鼓・大太鼓・シンバル) 合奏練習②
6	打楽器② 合奏③	打楽器の奏法(木琴・鉄琴・グロッケン) 合奏練習③
7	鍵盤楽器① 合奏④	鍵盤ハーモニカの指導法 合奏練習④
8	指揮法 合奏⑤	2・3・4拍子の指揮法 合奏練習⑤
9	曲の構成 合奏⑥	曲の構成や形式 合奏練習⑥
10	合曲想を生かした表現 合奏⑦	合奏における、曲想を生かした表現方法 合奏練習⑦
11	合奏発表	練習した曲を発表
12	編曲・アンサンブル①	子どもの歌をリズム合奏曲に編曲
13	編曲・アンサンブル②	編曲した曲をグループで発表
14	まとめ	理解度の確認
15	日本の伝統楽器	和太鼓を使ったリズム遊び

《学科教育科目》

科目名	器楽A	科目ナンバリング	C1011S◆●005
担当者氏名	井上 朋子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせで行い、保育現場における音楽活動の基礎技能を身に付けます。個人レッスンでは、ピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。一方、集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）、『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）その他、進度に応じた教材を担当教員が指示します。

《参考図書》

『ブルグミュラー 25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- バイエル70番以上の曲を弾くことができる。
- 基礎的な歌唱技能を身に付けて、弾き歌いをするができる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多くつくる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき、点数化します。器楽Aはグレード2に合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途実施されるグレード試験も必要に応じて任意で受けること。※グレード試験受験票に演奏に対する講評を記入して返却します。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	器楽B	科目ナンバリング	C1012S◆○006
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

「器楽A」に引き続き、個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせを行い、保育現場における音楽活動の基礎技能をさらに高めます。個人レッスンではピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

器楽Aと同じ
 ピアノが上達した場合は、バイエル→ブルグミュラー→ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）
 『ブルグミュラー25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
 『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- ブルグミュラー程度以上の楽曲が弾けるようになる。
- 弾き歌いの伴奏が余裕を持ってできるようになる。
- 表現豊かな歌唱ができるようになる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多く作る。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき点数化します。「器楽B」はグレード5を合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途に実施されるグレード試験も、必要に応じて任意で受けること。結果はコメントを付して返却します。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、グレード制の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C1011SG G007
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

子どもの成長において造形遊びは重要な役割を担っているといえます。子どもの創造力は遊びを通して育まれます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生が作品制作を楽しみながら、自身の得意な領域を発見できることをめざします。

《授業の到達目標》

子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。子どもの作品に魅力を見いだすことができる。作品を制作するそれぞれの子ども達に対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。
○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業内容に応じて紹介します。

《授業時間外学習》

・描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。
・課題提出が遅れそうな場合は、担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、これからの授業計画を理解する。
2	描写ー1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と効果を体験する。
3	描写ー2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と水彩絵の具の効果を体験する。
4	描写ー3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写ー4（立方体）	画面構成と線・面の捉え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写ー5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
7	描写ー6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
8	描写ー7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
9	描写ー8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成ー1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成ー2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成ー3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成ー4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を作成し、提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C1011SG G007
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特にない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に 線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C1012S◆○008
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作を行うことによって、造形力と発想力を鍛えることを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業の必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《授業時間外学習》

・各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。作品制作のための準備物や資料等は時間外に調査・購入すること。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。
 ○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。
 ・課題提出が遅れそうな場合は担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	変身！被り物制作ー1	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	変身！被り物制作ー2	さまざまな素材を使い、被り物制作を計画し、実行することができる。
4	変身！被り物制作ー3	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
5	変身！被り物制作ー4	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
6	変身！被り物制作ー5	完成した作品を作者が被り、演じる場面を写真に撮影し、制作の意図と効果を説明することができる。
7	立体作品制作ー1	設定されたテーマに添って、作品制作の意味と目的を理解し、制作の計画を立てることができる。イメージからラフスケッチを作成し、プランを絞り込むことができる。
8	立体作品制作ー2	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
9	立体作品制作ー3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
10	立体作品制作ー4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
11	立体作品制作ー5	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
12	立体作品制作ー6	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
13	立体作品制作ー7	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
14	作品撮影と展示効果の説明	完成作品を写真撮影し、作品の展示効果について理解することができる。
15	作品提出とまとめ	すべての作品を提出する。園における造形についての考え方と役割について、理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C1012S◆○008
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	影絵アイデアスケッチ	楽しい影絵劇の上演を目指して、グループ分けをし、題材・制作分担等を話し合うことができる。
2	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
3	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
4	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
5	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
6	影絵上演	分担を決め、楽しい影絵劇を上演することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
13	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
14	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
15	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育A	科目ナンバリング	C1011SG G009
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、II期開講の幼児体育Bに有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》

保育者として乳幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為、子どもの発育発達特徴を理解し乳幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、乳幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）“Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方をと運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方をと運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育B	科目ナンバリング	C1012S◆○010
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、保育における幅広い運動遊びの実践に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》

保育における幼児期の各年代に応じた運動遊びの援助が的確に出来る能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動遊びの正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期の各年代に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「運動発達科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for YoungChildren”
 DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
15	まとめ	全体のまとめをする

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I A	科目ナンバリング	C1011S-●013
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

子どもの保健 I Aを学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I—心身の発達・健康と安全—』
山崎知克 編著（建帛社）2013年11月25日

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

1. 胎生（胎児）から青年期に至るまでの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心身の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
【ten!『めばえ』よみうりテレビ 月曜日～金曜日18:52～18:57】乳幼児の特徴や親の子どもに対する想い・関わり方を感じ取り、講義中にイメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

・学期末テスト（100%）

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	VTR視聴にて出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することができ、説明することができる。（VTR視聴予定）
5	新生児の成長発達①	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達②	新生児期の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。（VTR視聴予定）
7	乳児の成長発達①	乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な体の発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達②	乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な心の発達を理解することができる。
9	幼児の成長発達①	幼児が健全に成長できるように幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達②	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントが解り、理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解る。
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に関係するワクチンの特徴・ワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	乳幼児を取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I B	科目ナンバリング	C1012S-●014
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

子どもの保健 I A で学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい病気・症状・事故についての理解を深めると共に、子どもの異変時に『子どもたちの命を守る』的確な判断と対応が行えるようになるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいように展開していく。また、施設などにおける乳幼児の健康と安全管理が理解できるようにする。

《授業の到達目標》

1. 乳幼児特有の病気・症状の理解ができ、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、常に『危機管理』がのしかかっていることを理解することができる。
 ・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート（10%）：コメントして返却
- ・学期末テスト（90%）

《テキスト》

子どもの保健 I A で使用したテキストを使用するため購入不要
 『子どもの保健 I 一心身の発達・健康と安全一』
 山崎知克 編著（建帛社）2013年11月25日

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
 【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00～21:29】
 乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。
 ※番組テーマは、毎週異なる。

《備考》

園児たちに『命の大切さ』を教えてほしいと願う思いから、病気の授業では『難病に罹り死にゆく子ども』のビデオを視聴する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの病気の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とその病気の症状・対応について理解できる。
2	保育者のかかわり	病気をもった子ども・健康な子どもへの保育者の対応・役割が解るようになる。
3	学校において予防すべき伝染病	感染症と伝染病の定義が解り『学校において予防すべき伝染病』の感染症の種類と出席停止期間の基準がわかる。
4	子どもによくみられるアレルギー	子どもによくみられるアレルギー性の病気とアレルギーを起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
5	子どもによくみられる痙攣	子どもによくみられる痙攣の病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
6	子どもによくみられるウイルス・細菌感染	子どもによくみられるウイルスによる感染症とウイルス・細菌による食中毒の病気が理解できて、現場でその対応・予防ができるようになる。
7	施設などでの衛生管理	施設などでのウイルス・細菌感染症の取り扱いが解り、二次感染を予防することの重要性が理解できる。
8	子どものさまざまな病気	子どもによくみられる骨・関節の病気・耳の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気・心臓の病気が解り、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの精神保健	乳幼児期によくみられやすい『こころ』の病気と発達障害が理解でき、その対応と予防、及び保育者へのかかわり方が解る。
10	VTR視聴による学習	子どもによくみられる小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTR視聴をし、その子どもの状態やおもいがわかるようになる。
11	保育現場での事故の種類	保育現場でのインシデント・アクシデント事例から、危険・事故防止・安全教育における保育者の役割が解る。
12	保育現場における事故防止・安全対策	子どもの発達段階ごとの事故の特徴とその種類が解り、子どもへの安全教育の重要性が理解でき、子どもに安全教育・指導ができるようになる。
13	子どもの救急処置①	保育所で起こった、けが・鼻出血・やけど・溺水・窒息を紹介しながら、それらの対応がわかる。
14	子どもの救急処置②	保育所で起こった熱中症の事例を紹介し、なぜ、熱中症が予防できなかったのか？をディスカッションし、熱中症の原因・症状・予防がわかる。
15	まとめ	『子どもの健康』が理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C1021SG G019
担当者氏名	古川 督		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

『社会福祉の基本体系（第5版）』勁草書房
法制度の変更があるため、第5版を購入すること。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
 - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（20%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（60%）により評価する。
筆記試験の後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	保育原理A	科目ナンバリング	C1011SG G023
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

- 保育実践に必要な基礎的知識を習得する。
- 自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
- 多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意味	保育とは何か
2	保育の意味を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭－保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育・教育施設－子ども・子育て支援新制度
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針－保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした 保育制度の未来
15	まとめ	子どもへの想いを確認 基礎的知識の確認

《テキスト》

『新・保育原理(第3版)－すばらしき保育の世界－(みらい2016)』『最新保育資料集2017』森上史朗編(ミネルヴァ書房 2017)『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館 2008)

《参考図書》

『フレーベルの生涯と思想』 荘司雅子著(玉川大学出版部1984), 『子どもの世界をどうみるか』 津守真著(NHKブックス1987), 『センスオブワンダー』 レイチェル・カーツ著 上遠恵子訳(新潮社 1996), 『クリエイティブ進化論』 道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999), 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008), 『教育・保育要領解説』(2015) またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来得る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中にとったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと(子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使した保育教材の探求等)。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもの観察する機会を多く持ってほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《学科教育科目》

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	C1012S-●025
担当者氏名	高谷 博之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会的養護の今日的課題と意義について学ぶ。家庭の養育機能の脆弱化が進む中、子育て支援、子どもの自立支援が重要な課題となっている。今後の社会的養護は、家庭的養護推進の方向であることを理解する。又、社会的養護実践の大きな部分を占める児童福祉施設の機能を理解すると共に、児童養護の体系の理解を深める。保育士として、子どもと向かい合い、子どもの自立を支援するための対人援助の方法を理解する。

《授業の到達目標》

- ・児童憲章、子どもの権利条約、社会的養護の基本理念と原理について理解し、説明できる。
- ・専門職としての専門性を理解し、施設実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》

- ・筆記テスト（70%）
- ・課題レポート（30%）・レポートにはコメントをつけて返却する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の現状	子どもを取り巻く環境、社会的養護を必要としている子どもについて、児童憲章、児童福祉のキーワードについて
2	児童養護の定義、児童虐待問題	児童養護の定義について、虐待の種類、虐待の社会的背景、発生要因、虐待への対応、オレンジリボン運動について
3	SIDS、捨てられ体験	乳幼児突然死症候群の死別反応の特徴、「喪の痛み」、「喪の過程」について、「捨てられ体験」からくる対人関係への影響、現実感の障害について
4	社会的養護の歴史と今日的課題	慈善救済事業の始まり、明治・大正時代、児童福祉法施行、ホスピタリズム論、子どもの権利条約、児童福祉施設最低基準について
5	社会的養護の基本理念と原理	「子どもの最善の利益のために」「社会全体で子どもを育む」について、「子どもの権利条約」について
6	施設養護の基本原則	基本的人権の尊重と情緒安定性の原理、集団と個の統一的原理、生活支援と学習支援保障の原理、親・家族関係の調整の原理、積極的社会参加促進の原理について
7	施設養護実践における専門性の課題	地域での協働子育てシステムの構築、自立支援計画票、チームケア、第三者評価、苦情解決について、要養護児童の発達課題、トラウマ、PTSD、軽度発達障害について
8	施設養護の実践と方法	施設養護の意義と目的について、「日常生活」や「自立支援」について
9	施設養護の実践と方法	「治療的援助」について、「親子関係・学校・地域との関係調整」について
10	地域の社会的養護機関	地域の相談機関、援助機関について、児童相談所の機能等について
11	次世代育成支援と地域の子育て支援	エンゼルプラン、新エンゼルプラン、少子化対策プラスワン、次世代育成支援対策推進法、「子ども・子育て新システム」について
12	地域の子育て家庭支援施策	子育て短期支援事業、特別支援教育、認定こども園、総合こども園について
13	施設養護の職員	施設職員に求められる倫理、職員の専門性の課題、専門職に求められる技術、ケースワークについて、施設運営と財政措置
14	児童養護における養育のあり方	子どもの養育論の確立、施設職員に求められる専門性、子どもが求めている大人像について
15	学習のまとめ	社会的養護の将来像、児童養護施設の将来像と課題について、筆記テスト

《テキスト》

シリーズ福祉新時代を学ぶ『新選・児童の社会的養護原理』
神戸賢次、喜多一憲・編（株）みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと（予習、復習）

《備考》

- ・授業開始時に出欠の確認を行うため始業時間を厳守すること
- ・授業中の私語や携帯メール、居眠りは厳禁

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、諸富 眞知子		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教育の基本を知る。
- 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%
- ・質問などはオフィスアワーで個別に対応します。指導案などの提出物は具体的に指導を入れて返却する。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 幼稚園の基本について	教育実習は、幼稚園免許状を取得するために必修科目として位置づけられていることを知る。幼稚園の基本について知る。
2	教育実習について 実習の意義と目的	教育実習の意義と目的について説明することができる。 幼稚園見学・観察実習・幼稚園参加指導指導実習の違いがわかる。
3	幼稚園教諭の仕事と役割 幼稚園現場を知る	ビデオを通して、幼稚園教諭の仕事と役割を理解し、幼稚園の現場を知る。
4	幼稚園の生活について	幼稚園の1日の流れを知り、目指そうとする保育者像を明確にする。
5	幼稚園見学	4週までの学習を基に、附属加古川幼稚園において、保育指導の実際、施設や環境構成について学ぶ。
6	幼稚園見学からの学びについて	幼稚園見学で学んだことをグループ討議をする。 グループでまとめたことを発表し、学んだことを共有する。
7	実習生の心得 マナー講座	実習生の心得を実技指導を交えて学習し、日常的に実践する力を養う。
8	幼稚園見学・観察	幼稚園生活を知る（3歳児・4歳児・5歳児の姿）
9	幼稚園見学からの学びについて	幼児の発達について（幼児理解）幼稚園見学から学んだことを討議し、まとめて発表することができる。
10	保育の実際（1）	保育実技について知る。（絵本の読み聞かせ・手遊び・歌・ゲームなど）
11	保育の実際（2）	実習記録の書き方を学ぶ。
12	保育の実際（3）	幼稚園の園庭、保育室から環境構成と記録の書き方を学ぶ。
13	保育の実際（4）	子どもの姿の捉え方と記録の書き方を学ぶ。
14	保育の実際（5）	観察記録から教師の援助について書き方を学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容から、その成果を説明し、実習への意欲に繋げることができる。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、諸富 眞知子		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教育の基本を知る。
- 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%
- ・質問などはオフィスアワーで個別に対応する。指導案などの提出物について具体的に指導を入れて返却する。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
 『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
 『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 1 実習資格条件並びに実習要綱の確認をする 教育実習の意義と課題①
2	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 2 教育実習の意義と課題②
3	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 3 実習日誌の書き方について（観察のポイント）
4	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 4 実習日誌の書き方について
5	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 5 実習日誌の書き方について
6	事前指導 実習に向けて	教育実習の心得と諸注意について再確認する
7	事後指導①	教育実習に係る事後指導 1 実習の自己評価
8	事後指導②	教育実習に係る事後指導 2 グループ討議による反省、評価及び課題の明確化
9	事後指導③	教育実習に係る事後指導 3 実習の意義、取り組むべき課題について発表
10	保育の実際①	指導案作成と教材研究
11	保育の実際②	指導案作成と教材研究
12	保育の実際③	指導案作成と教材研究
13	保育の実際④	模擬保育に取り組み、実習の実践力に繋げることができる。
14	保育の実際⑤	模擬保育に取り組み、実習の実践力に繋げることができる。
15	まとめ	これまでの学習内容から、その成果を説明し、実習への意欲に繋げることができる。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅰ《保育所実習》		科目ナンバリング	C1011S-●028
担当者氏名	石川 恵美、山村 けい子、古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期 1年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 			

《授業の概要》

保育所の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《テキスト》

決まったものではありません。実習の中で自分で探してください。

《参考図書》

各教科や「保育実習指導Ⅰ」で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先の先生方にも紹介してもらってください。

《授業の到達目標》

- 1 保育所の役割や機能について具体的に理解する
- 2 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める
- 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ
- 4 保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ
- 5 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《授業時間外学習》

積極的に保育現場等を訪問し、子どもとの出会いを経験しておくこと。実習までに少しでも遊びのレパートリーを増やしておくこと。実習に入る少し前から、体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。実習中はアルバイト禁止です。実習ノートを1日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。実習ノートは丁寧に書いてください。

《成績評価の方法》

実習園の評価に、「保育実習指導Ⅰ」の受講状況を加味したもの（60%）、実習ノート（40%）。なお「保育実習Ⅰ」は保育所10日間、施設10日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。実習園からの成績表をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

実習園にも学校にも、ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）を忘れないこと。実習内容については、各実習園の指示に従ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上 詳細は、保育実習実施要項参照 各実習園にて見学観察実習を行う
2	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
3	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
4	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
5	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
6	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
7	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
8	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
9	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
10	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
11	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
12	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
13	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
14	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
15	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《保育所実習》		科目ナンバリング	C1011S-●029
担当者氏名	石川 恵美、山村 けい子、古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 1年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

保育所の見学観察実習に備え、乳幼児の理解及び、保育所の内容と機能について学び、生きた子ども観・保育観を習得する。また、実習の意義、具体的な内容、方法、心得等を事前に学習し、必要な手続きを行う。実習後、グループディスカッションを行い観察実習の課題達成度を話し合う。

《テキスト》

「実習日誌の書き方」 開 仁志 一藝社 2015年
 「これで安心！指導案の書き方」 北大路書房 2008年
 「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 2008年

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育所の社会的な役割と機能を学び、一日の保育の流れや設備について理解する。
- 保育を必要とする子どもと保護者の理解を深め、生きた子ども観と保育観を理解し、実習への意欲を高める。
- 保育士の役割とその内容を理解する。

《授業時間外学習》

- 居住地近くの保育所（園）を見学させてもらう（外からでも良い）
- トライやる・ウィークで保育所（園）を経験した人は、その内容を思い出し実習に生かせるようにする。
- 家事の手伝いを積極的にする。

《成績評価の方法》

事前指導（30%）事後指導（30%）実技（20%）提出物（20%）「保育実習指導 I」（施設）と連動しての総合評価とする。なお、「保育実習 I」と同時に成績評価される。実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。実習園の評価をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

授業には実習にふさわしい服装と態度で臨むこと。欠席する場合は、必ず実習事務室に連絡を入れ、後日補講を受けること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保育実習とは（実習全体の説明） 保育士資格について ・保育所の概要と実習の意義
2	見学観察実習に向けて 1	実習事前準備 1
3	見学観察実習に向けて 2	実習事前準備 2
4	見学観察実習に向けて 3	実習事前準備 3
5	見学観察実習に向けて 4	実習事前準備 4
6	見学観察実習に向けて 5	実習事前準備 5
7	見学観察実習に向けて 6	実習事前準備 6
8	見学観察実習に向けて 7	実習事前準備 7
9	見学観察実習に向けて 8	実習事前準備 8
10	見学観察実習に向けて 9	実習事前準備 9
11	見学観察実習に向けて10	実習事前準備 10
12	見学観察実習に向けて11	実習事前準備 11
13	見学観察実習に向けて12	実習事前準備 12
14	見学観察実習を終えて	見学観察実習を終えての振り返りおよびグループディスカッション
15	見学観察実習を通して	見学観察実習の反省および参加指導実習の目標と課題まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C1011S-●029
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社。
そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 ○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 ○実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 ○実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それに従って自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）
事後指導：報告書の作成（50%）

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習 I」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートの内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導 2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導 3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導 5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味/
11	事前指導 9	実習直前指導
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学 I	科目ナンバリング	C1011SG G034
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学 I では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のみずみについて理解することも目標とする。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
『やさしく学ぶ保育の心理学 I・II』浜崎隆司ら編ナカニシヤ出版

《参考図書》

『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観・保育観を涵養すること。

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価 70%
授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価 30%
試験終了後解説を行い、学習理解を深める

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学 I」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	さまざまな発達理論	ハヴィガースト、エリクソンなどの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。
5	胎生期の発達の特性と発達上の諸問題	胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。また、大脳生理の基礎的事項、出生前検診の概要を知り、理解を深める。
6	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題①	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
7	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題②	運動面、情動面、言語面などに焦点を当てて、乳児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
8	幼児期前期の発達の特性と発達上の諸問題	自我の芽生え、自己意識の形成などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
9	幼児期後期の発達の特性と発達上の諸問題	認知・思考の発達、社会性の発達などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
10	児童期の発達の特性と発達上の諸問題	児童期の発達に関して、仲間関係、学校生活の問題に焦点を当てて児童期の発達の特性について学ぶ
11	青年期の発達の特性と発達上の諸問題	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて、青年期の発達上の諸問題について学ぶ
12	成人期の発達の特性と発達上の諸問題	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
13	老年期の発達の特性と発達上の諸問題	老年期の発達に関して、定年後の社会や家族との関係に焦点を当てて、心理的諸問題について学ぶ
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

科目名	児童心理学	科目ナンバリング	C1021S◆○037
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。
 また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》

- 子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できること。
- 特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》

15回目に行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%
 試験終了後解説を行い、学習理解を深める

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

『はじめて学ぶ乳幼児の心理-こころの育ちと発達の支援』 桜井茂男（編） 有斐閣 2006

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献等を自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。
 また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。
 質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	児童心理学の概要について理解する。また、児童心理学を学ぶ意義について、子ども時代の発達の特徴について理解を深める。
2	大脳生理の基礎的事項/ 感覚・知覚・認知	中枢神経系の発達や大脳機能の局在など大脳生理の基礎的事項、また、感覚・知覚・認知の概要について理解する。
3	認知・思考および言語の発達	ピアジェの認知発達理論について学び、認知思考の発達過程について理解を深める。象徴機能の発達と言語の発達について学び、適切な言葉かけについて考える。
4	人格の発達①自我の芽生え	乳幼児期の自我の発達について理解を深める。愛着とは何か。親子間の愛着形成の重要性、遊びや嫉との関係について理解を深める
5	人格の発達②欲求不満と適応行動	欲求や葛藤について学び、防衛機制を通して適応行動と不適応行動についての理解を深める。欲求不満耐性を配慮した保育について考える
6	人格の発達③人格の発達と環境	さまざまな人格理論を学んだうえで、文化的背景、親の養育態度など環境の与える影響について考える。
7	人格の発達④青年期の発達課題の達成	職業選択、高等教育機関での学び、児童養護施設の子どもの事例などを通して、発達課題の達成と人格の成熟について考える
8	人格の発達⑤心の問題	各発達段階の特性を理解し、各発達段階で生じやすい心の問題について理解を深める。特に乳児期の母子相互作用、青年期の自我同一性の確立の面から考える
9	心の問題への支援	人格検査や心理療法の概要を理解し、カウンセリング・マインドおよびカウンセリングの基本を理解する。
10	知能と知能検査	知能の概要と知能検査の概要について知り、その活用方法について理解を深める。
11	発達障害①発達障害の概要	広汎性発達障害、ADHD、学習障害などの発達障害の概要を理解する。
12	発達障害②発達障害児への支援	発達障害のある子どもへの基本的な支援についても考える。また、保護者に対する対応のあり方について学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども達①問題の概要	外国籍の子どもの問題、社会的貧困、家庭の養育の不良、児童虐待など子どもをめぐる諸問題の概要を理解し、その支援についても考える。
14	特別な支援が必要な子ども達②支援の方法	さまざまな問題を抱える子どもに対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	C1012S-〇039
担当者氏名	原 志津		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることを意味を学んでほしい。

《テキスト》

『保育・教育に生きる臨床心理学』
 松島恭子監修・篠田美紀編著
 光生館 税別2200円

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本
 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
- ・乳幼児期の子どもこころの発達について知る。
- ・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
- ・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。
 こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%
 授業内容の理解70%（まとめ①②③）
 まとめ①②についてはコメントをつけて返却
 まとめ③については全体的に講評を行う

《備考》

集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントを各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の基本的な考え方について知る
2	こころについての探求	フロイトの発見したことを知る
3	精神分析①	フロイトの精神分析について知る
4	精神分析②	フロイトの精神分析の用語を学ぶ
5	まとめ①	第4回までの授業のまとめ（筆記試験）
6	こころの世界の研究①	乳幼児のこころの世界①・・・メラニー・クラインの研究を知る
7	こころの世界の研究②	乳幼児のこころの世界②・・・マーガレット・マラーの研究を知る
8	こころの世界の研究③	乳幼児のこころの世界③・・・ウィニコットの研究を知る
9	こころの世界の研究④	乳幼児のこころの世界④・・・親子関係観察ビデオから学ぶ
10	まとめ②	第9回までのまとめ（筆記試験）
11	心理療法について①	ユングの心理学について知る
12	心理療法について②	箱庭療法を知る
13	心理療法について③	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリングを知る
15	まとめ③	第14回までのまとめ（筆記試験）

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	C1012SG G041
担当者氏名	三宅 美由紀、春 豊子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

学生がめざす保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- 教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
- 保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》

- [1] 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
- [2] レポート課題等の提出物 30%（提出遅れは、減点）
- [3] 筆記試験 50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像
2	保育者をめざす	何故、保育者をめざすかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより、学びを深める
3	保育職とは	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について深く学ぶ。
4	保育者の一日	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。（環境構成・生活のしかた・子ども同士を繋ぐ等々）
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。〈視聴覚教材〉
7	保育者の安全危機管理①	園内外の安全確保について学ぶ。
8	保育者の安全危機管理②	災害等に対する備えについて深く学ぶ。
9	法と保育者①	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親、園、社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《テキスト》

改訂保育者論 [第3版] 民秋 言 編著 建帛社

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省
 『保育所保育指針』 厚生労働省
 認定こども園教育・保育要領解説
 その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておく。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめる。

《備考》

- ・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論		科目ナンバリング	C1011SG G042
担当者氏名	三宅 美由紀、春 豊子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を習得します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養う。

《授業の到達目標》

- 教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
- 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
- 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果、10%
- (2) レポート課題等の提出物 30%
- (3) 筆記テスト60%

《テキスト》

『保育課程論』
北野 幸子 編著 北大路書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省
『保育所保育指針解説』 厚生労働省
『認定こども園教育・保育要領解説』

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてくること。

《備考》

・幼稚園・保育所・認定こども園などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に意識して収集しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C1011S◆●043
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い発達を願って、幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育するということの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い、保育技術を培う。

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、説明することができる
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感を持つ。

《成績評価の方法》

筆記試験	40%
課題レポート	40%
受講態度	20%

- ・オフィスアワー等で質問を受け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《テキスト》

『保育内容総論』神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省
 『保育所保育指針』厚生労働省
 『保育内容総論』光生館

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育内容とは	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ。
4	幼児期の遊びと学び	遊びを通して、子どもは何を学ぶのか考察する。
5	「命を守る」とは	東日本大震災から学ぶ。
6	子どもの発達と保育①	乳幼児の発達過程について理解を深める。
7	子どもの発達と保育②	月齢・年齢による子どもの発達の姿を知る。
8	子どもの育成と保育者の計画①	主体性をもった子どもの育成と保育計画について学ぶ。
9	子どもの育成と保育者の計画②	具体的に指導案を作成し、計画の重要性を知る。
10	指導計画と実践	作成した指導案に基づいて実践することにより、課題等を見出す。
11	保育の実際①	保育園の子どもの様子を知る。①（視聴覚教材）
12	保育の実際②	幼稚園の子どもの様子を知る。②（視聴覚教材）
13	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育を学ぶ。
14	保・幼・小の交流	交流の成果と課題
15	授業のまとめ	授業の振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C1011S◆●043
担当者氏名	青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育することの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い保育技術を培う。

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的な事例や演習を通して理解し、説明することができる。
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《成績評価の方法》

筆記試験	40%
課題レポート	40%
受講態度	20%

- ・オフィスアワー等で質問を受け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《テキスト》

《テキスト》

生活事例から始める『保育内容総論』
神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省
『保育所保育指針』厚生労働省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
内閣府・文部科学省告示第1号・厚生労働省
『保育内容総論』光生館

《授業時間外学習》

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育の基本と保育内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	幼稚園・保育所・認定こども園の比較	幼稚園、保育所、認定こども園の保育内容や管轄、法令等の違いを理解する。
4	子どもの発達と保育①	乳幼児の発達の過程について理解を深める。
5	子どもの発達と保育②	月齢・年齢による子どもの発達の姿を知る。
6	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ。
7	幼児期の遊びと学び	遊びを通して子どもは何を学ぶのかを考察する。
8	子どもの遊びと指導計画①	「発達の壁を乗り越える」4歳児の発達の特徴について学ぶ。
9	子どもの遊びと指導計画②	「育ちあい、学び合う」就学へつないでいく保幼小連携について学ぶ。
10	子どもの生活と保育	保育の1日の流れを理解し、その指導方法や保育の形態を知る。
11	保育内容の変遷	明治から現在に至るまで、それぞれの時代の社会的背景の影響を受けて変化してきた保育内容の歴史の変遷を学ぶ。
12	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育とはについて学ぶ。
13	「命を守る」とは	震災を通して命の大切さを学ぶ。
14	保育の多様な展開	子どもの発達と社会の要求に即した保育の工夫や様々な事情を持つ子どもの保育について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業の振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係	科目ナンバリング	C1012S◆●045
担当者氏名	山村 けい子、諸富 眞知子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人とかかわりのなかで培われていく。「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要綱等の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉かけ、支援、援助を学ぶ。乳幼児の良き支援者になるために積極的な関心と柔軟心を身につける。常に考える態度で臨み、知識、技能が身につくようにし、また、保護者対応についても保育の方法や実践力を習得する。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、レポート（20%）授業態度（10%）
 レポートは、コメントを付して返却をする。

《テキスト》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』、文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』厚生労働省、文部科学省、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《参考図書》

小田豊・奥野正義編著（2015）『保育内容 人間関係』北大路書房
 授業中に適宜知らせる。適宜プリント配布する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。
 レポートの提出は、必ず期限を守る。
 保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高める努力をする。

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、到達目標の理解をする。『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。
2	子どもを取り巻く環境としての「人間関係」	現代社会と子どもの「人間関係」について理解をする。社会環境の変化が子どもの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。
3	乳幼児教育の新たな位置づけと領域「人間関係」	今までの「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」の中の「人間関係」の変遷から何が大きく変わったかを押さえ、ねらい、内容を理解する。
4	「人間関係」の発達とその問題	乳幼児期の自己の発達、乳児期の人間関係の特徴、幼児期の人間関係の特徴、乳幼児期にの人間関係の発達における問題を理解する。
5	遊びのなかで育つ「人間関係」	あそびと人間関係、人とかかわりの実際と子どもの育ち、人とかかわりを育てる保育者の援助を理解する。
6	人間関係の基礎をつくる遊び	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。
7	保育者と子どもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、幼児の仲間作りと保育者のかかわりについて理解し、説明することができる。
8	子どもの育っていく過程における様々な配慮	集団の中で育っている一人ひとりをどうとらえるか。「みんなと同じ」という価値観について考え、関係性を理解する。
9	「人間関係」の新しい展開	道徳性の芽生えを培う、子どもの人間関係を育てる所（園）内の協力体制について理解をする。
10	家庭での子育て支援をする必要性	家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支えることを理解する。
11	現代的な諸問題に対応した保育と「人間関係」	子どもの多様さ、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。
12	地域子育て支援にかかわる「人間関係」	地域子育て支援とは何か。乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域の子育て支援の始まりを理解する。
13	人間関係の育ちを促す地域子育て支援	人間関係の育ちを促す地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを促す地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。
14	これからの地域子育て支援と授業の振り返り	地域とともに子育てをする、これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。授業内でレポートを書き、内容を検討し、説明することができる。
15	学習のまとめ	筆記試験。振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係	科目ナンバリング	C1012S◆●045
担当者氏名	諸富 眞知子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人とかかわりのなかで培われていく。「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要綱等の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉かけ、支援、援助を学ぶ。乳幼児の良き支援者になるために積極的な関心と柔軟心を身につける。常に考える態度で臨み、知識、技能が身につくようにし、また、保護者対応についても保育の方法や実践力を習得する。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、レポート（20%）授業態度（10%）
 レポートは、コメントを付して返却をする。

《テキスト》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』、文部科学省編『幼稚園教育要領解説』厚生労働省、文部科学省、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《参考図書》

小田豊・奥野正義編著（2015）『保育内容 人間関係』北大路書房
 授業中に適宜知らせる。適宜プリント配布する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。
 レポートの提出は、必ず期限を守る。
 保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高める努力をする。

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、到達目標の理解をする。『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。
2	子どもを取り巻く環境としての「人間関係」	現代社会と子どもの「人間関係」について理解をする。社会環境の変化が子どもの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。
3	乳幼児教育の新たな位置づけと領域「人間関係」	今までの「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」の中の「人間関係」の変遷から何が大きく変わったかを押さえ、ねらい、内容を理解する。
4	「人間関係」の発達とその問題	乳幼児期の自己の発達、乳児期の人間関係の特徴、幼児期の人間関係の特徴、乳幼児期にの人間関係の発達における問題を理解する。
5	遊びのなかで育つ「人間関係」	あそびと人間関係、人とかかわりの実際と子どもの育ち、人とかかわりを育てる保育者の援助を理解する。
6	人間関係の基礎をつくる遊び	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。
7	保育者と子どもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、幼児の仲間作りと保育者のかかわりについて理解し、説明することができる。
8	子どもの育っていく過程における様々な配慮	集団の中で育っている一人ひとりをどうとらえるか。「みんなと同じ」という価値観について考え、関係性を理解する。
9	「人間関係」の新しい展開	道徳性の芽生えを培う、子どもの人間関係を育てる所（園）内の協力体制について理解をする。
10	家庭での子育て支援をする必要性	家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支えることを理解する。
11	現代的な諸問題に対応した保育と「人間関係」	子どもの多様さ、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。
12	地域子育て支援にかかわる「人間関係」	地域子育て支援とは何か。乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域の子育て支援の始まりを理解する。
13	人間関係の育ちを促す地域子育て支援	人間関係の育ちを促す地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを促す地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。
14	これからの地域子育て支援と授業の振り返り	地域とともに子育てをする、これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。授業内でレポートを書き、内容を検討し、説明することができる。
15	学習のまとめ	筆記試験。振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C1012S◆●047
担当者氏名	石川 恵美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常生活の中で、人とかかわりを通して言葉を獲得していく。

また、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『保育と言葉』 嵯峨野書院 2013年

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008年
 『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年
 その他、適宜講義時に紹介する。

《授業の到達目標》

乳幼児期の「言葉」の発達を知り、その獲得とプロセスを学ぶ。また、保育者としての援助方法を考える。

《授業時間外学習》

子どもとかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレパートリーを増やす。

《成績評価の方法》

筆記試験 50%
 創作絵本 20%
 授業への取り組み姿勢 30%
 筆記試験後、解説を行う

《備考》

・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
 ・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション領域「言葉」のねらいと内容	○講義の概要 ○履修上の注意 ○授業の進め方 ○絵本の読み聞かせの意義について
2	保育の基本と保育内容「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とかかわりを知る。
4	幼児期の言葉の発達	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びのなかの「言葉」を理解する。
5	自分の考えや思いを伝えるための言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。
6	体験と言葉	乳幼児期の体験が「言葉」に及ぼす影響を知り、自身の乳幼児期を振り返る。
7	保育内容「言葉」の指導計画と評価	「言葉」に関する指導計画を立て、保育をシミュレーションする。
8	保育内容「言葉」と保育実践（1）保育所	保育所における「言葉」の具体例を学び、保育者の援助についても理解を深める。
9	保育内容「言葉」と保育実践（2）幼稚園	幼稚園における「言葉」の具体例から子ども同士の「言葉」のやりとりや保育実践の留意点を学ぶ。
10	発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援	発達障害についての理解を深め、特別支援教育について学ぶ。
11	小学校における「言語活動充実」実践	小学校における言語活動について学び、保育所・幼稚園との連携を考える。
12	これからの幼児教育の課題と保育内容「言葉」	保育環境をとりまく現状と今後の課題について考える。
13	創作絵本発表会（1）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
14	創作絵本発表会（2）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
15	まとめ	筆記試験、授業理解の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現B	科目ナンバリング	C1012S◆●049
担当者氏名	井上 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」に示されているねらいや内容を踏まえて、音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びます。そして、その指導法について習得し、保育現場での実践力へとつなげます。また、諸感覚を通した様々な表現活動を体験する中で、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《授業の到達目標》

- (1) 総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解する。
- (2) 幼児の多様な表現に気付き、引き出すことができる感性を磨く。
- (3) 感じたことや思いを意欲的に表すことができる表現力を身に付ける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み25%、提出課題25%
 実技試験25%、筆記試験25%
 ※実技試験後には講評を伝える。また最終試験後には解説を行います。

《テキスト》

『手あそび、体あそび、わらべうたがいっぱい あそびうた大全集200』細田淳子編著、永岡書店、2014

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008

《授業時間外学習》

授業内で得た知識及び内容は各自復習を行い、教育実習や保育実習の際に活用できるようにしておくこと。特に毎授業で習得した手遊びは、自信をもってできるようにしておくこと。

《備考》

体験による学習を主体としますので、授業への積極的な取り組みを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心をひらく	・オリエンテーション ・表現とは ・ペア・グループによるコミュニケーション活動
2	感覚をひらく①	・サウンドマップづくり ・音、色、形を感じる
3	感覚をひらく②	・じっくり見る、耳を澄ます、イメージを広げる
4	音楽と造形をつなぐ	・音を絵にする、絵を音にする ・図形楽譜づくり
5	子どもの表現発達	・子どもの表現の発達について知る
6	言葉を介して①	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本を用いて
7	言葉を介して②	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本をつくる
8	音をつくる①	・様々な素材から音を見つける ・音の出るおもちゃづくり
9	音をつくる②	・楽器づくり ・手作り楽器を用いた表現活動
10	身体を使って	・音に反応して動く ・音楽に合う身体表現を考える
11	「表現」の基本的理解	・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容について理解する
12	演じる①	・物語を演じる①
13	演じる②	・物語を演じる②
14	演じる③	・グループ発表
15	学習のまとめ	・理解度の確認

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C1012S◆-050
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

- 過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。
- 主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。
- 自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著（北大路書房 2009）
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

《参考図書》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）、『マインド・ストーム』シモア・ハート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）、『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）、『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）、その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来得る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現や保育実践を見ての感想等）。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	保育方法といっても特定の方法がある訳ではない
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者 援助者 モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる 気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる 共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとチーム保育	レジャ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション 記録 保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互恵性 継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心 傾聴 受容 ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性 創造の可能性 コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認 事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	乳児保育A	科目ナンバリング	C1011S-●052
担当者氏名	石川 恵美		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育所・乳児院・家庭保育における「乳児保育」について学ぶ。乳児保育の歴史、現状、課題を知り、保育所の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。0、1、2歳児の発達の道すじと保育の方法について学ぶ。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》

- 乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今日的な課題を考察する。
- 0歳児、1歳児、2歳児の子どもの発達を理解する。
- 乳児保育の保育内容をDVD視聴と演習を通して理解する。

《授業時間外学習》

乳児の発達に基づいた手作りおもちゃを作成する。乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方の提起。保育所など乳児のいる所に行きできるだけ触れるようにする。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 50%
- 作品・レポート提出・授業内発表 30%
- 授業にとり組む姿勢 20%
- 筆記試験後、解説を行う

《備考》

- ・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
- ・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	○乳児の概念、乳児保育の概念について ○DVD視聴『赤ちゃんからのメッセージ』
2	乳児保育の歴史と現状	○女性労働と乳児保育の関わり ○乳児保育への期待と課題
3	乳児の発達Ⅰ	0歳児前半 DVD視聴『赤ちゃんの一年・前編』 母子関係の形成と人間らしさの発見
4	乳児の発達Ⅱ	0歳児後半 DVD視聴『赤ちゃんの一年・後編』 0歳児の発達の道すじと特徴
5	乳児の発達Ⅲ	1歳児 DVD視聴『乳児保育の実際1』 1歳児の発達の道すじと特徴
6	乳児の発達Ⅳ	2歳児 DVD視聴『乳児保育の実際2』 2歳児の発達の道すじと特徴
7	0歳児の生活と保育者の関わり	オムツ交換 食事、排泄、睡眠等
8	1、2歳児の生活と保育者の関わり	基本的生活習慣の自立
9	0、1、2歳児のあそびと保育者の関わり	あそびいろいろ 手作りおもちゃの作成
10	あそびの演習①	お散歩マップの作成
11	あそびの演習②	お散歩マップの作成
12	あそびの演習③	お散歩マップの作成・発表
13	乳児院での保育	乳児院での保育の実際 DVD視聴『乳児院の一日』
14	家庭との連携・乳児と家庭を取り巻く現状	保護者への援助、家庭・地域との連携方法 地域の子育て支援を考える
15	まとめ	筆記試験、授業理解の確認

《学科教育科目》

科目名	障害児保育A	科目ナンバリング	C1012S-●054
担当者氏名	柳田 洋		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》

『幼児の発達の基礎』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）
 『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かもがわ出版）
 『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）
 その他、授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。
 適宜、レポート等の提出を課す。
 試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害①	障害の理解
9	知的障害②	保育上の留意点
10	広汎性発達障害①	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害②	保育上の留意点
12	自閉症①	障害の理解
13	自閉症②	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり